

第3学年D組 音楽科学習指導案

日 時 令和5年11月4日(土) 第2限
場 所 音楽室(教室棟3階)
指導者 小門 佳寿美

1. 主題(題材)名 附中のハーモニーを成功させよう「旅立ちの時～Asian Dream Song～」

2. 目標

- (1) 音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。 [知識及び技能]
- (2) 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 [知識及び技能]
- (3) のどの構造や機能を理解することや、歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 [思考力、判断力、表現力等]
- (4) 音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱表現の学習に取り組む。 [学びに向かう力、人間性等]

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や背景などとの関わりについて理解している。 ・声の音色や響き及び言葉の特性に応じた発声や喉の構造との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 ・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌っている。	・リズム、速度、旋律、ハーモニー、強弱などの要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって創意工夫したりしている。	・歌詞が表す背景や心情及び曲想や味わいに関心を持ち、さらに身体の一部である喉の機能にも関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱表現の学習に取り組もうとしている。

4. STEP との関わり

(1) 音楽科としてのとらえ

音楽科の歌唱活動では、パート練習においては、対話型そして生徒の自主性によって進める活動を大切にしている。課題を見つけ、それらを共有し、練習することで「声や表現を揃える」ことが可能となる。合唱練習によって、パート同士の関わりや役割を知り、互いの努力を知っていくなかで、自己を肯定し仲間を尊重する気持ちが育つ。クラスで一つの音楽を奏でる創造の喜びを味わわせたい。合唱が完成するまでのプロセスにおいて、【問題発見】【問題解決】の力が、また「行動面」においては、【協働】が育成できると考える。歌唱発表においては、練り上げた音楽表現にメッセージを込めて聴衆に届けことが、音楽科で育成できる【伝達・発信】である。STEP の研究発表にも通じることから充実させていきたい。

(2) 育成したい資質・能力について

合唱をつくりあげるプロセスにおいて、「どこの部分に課題があるのか」を自分たちの歌声から【問題発見】する力、「どのように歌えばいいのか」を楽譜に書かれていることを【根拠】とし見出す力、「歌えるようになっているか」「歌いたいことが表現できているか」をメタ認知し、自己調整しながら充実感を味わう経験に繋げる【問題解決】の力を育成していく。【協働】によって仲間と歌うことの楽しさを味わい、想いをこめた合唱を聴衆に向けて【伝達・発信】することを期待する。

5. 単元について

本題材における学習指導要領内容との関連は「A 表現」(1) ア、イ(ア)、ウ(ア)(イ)及び共通事項(1) ア、イである。喉の構造・発声・音色や響き及び言葉の特性を表現と関わらせて理解すること、全体の響きや各声部の声と全体の響きのバランスを調整する技能を身につけること、音楽の構造と曲想との関わりを理解し、歌唱表現を創意工夫し、想いや意図をもって歌うことをねらいとする。「附中のハーモニー」に向けての特別活動でもある。2020 年以来発表活動が解禁されて 2 回目の開催であり、最高学年となった本年度が最後であることから特別な想いや熱意が生徒から感じられる。昨年度の経験を元に、合唱練習に価値を見出し有意義な時間を重ね、表現力・集中力も向上している。完成までの道のりを仲間と協力し、一体感をもって表現する楽しさと達成感を味わうことを学級担任と協力して支えていく。『旅立ちの時～Asian Dream Song～』に込められたメッセージと 3D の想いが一つになった演奏を聴衆へ届け、「音楽」だから出来る【伝達・発信】を実践させたい。

○楽曲について

・概要

この曲は 1988 年長野で開催された第 7 回冬季パラリンピックの公式テーマソングとして、ドリアン助川作詞、久石譲作曲、富沢裕編曲により発表された。オリジナル版は THE BOOM の宮沢和史が歌っている。この曲の魅力は、歌詞の力強さと旋律の美しさにある。「ホープ&レガシー(希望と遺産)」をテーマにし「障がいがあってもホープ(希望)を持っていきること、またホープ(希望)があれば必ず乗り越えられるということ、長野パラリンピックを通して、障がいのあるなしに関わらず共に生きられる世界を作るという新しい価値観を創り出すこと。それらがレガシー(遺産)になるという意味が込められている。」とこの曲のプロデュースをする際に久石譲が語っている。「生きているものすべての人に価値があり、かけがえのない存在」という温かな眼差しとメッセージが込められている。時代が変化し価値観も多様化している現代は、35 年前に願った世界を実現し、我々はレガシーと呼べ

る社会を作っているのか、今なお色褪せずこの曲が私たちに語りかける。

・楽曲分析

へ長調・4分の4拍子・混声三部合唱・三部形式。(AA+B+C 2番はA+B+C)。曲全体でへ長調とニ短調の自然短音階が揺れ動き、曲自体はエオリア旋法で閉じている。前奏がA7sus4の和音で始まる。一瞬にしてこの曲の世界観を示す印象的な始まりであり、光を想起させる。ピアノ伴奏によってIV→V→VIの和声進行の響きと、付点リズムとシンコペーションを巧みに繋げて物語を語りだす。さらに、印象に残るメロディには、5音音階の一種ヨナ抜き音階(IV(Bb) VII(E)の音が抜かれた旋律が用いられている。古来日本人が親しんできたこの音階によって、どこか懐かしく美しく、郷愁を誘う。[C]では、転調を多用しており、和声進行が変化することで世界観の広がりを感じさせられる。

[A] SopとAltが同音、Ten.は一オクターブ下の3パートがユニゾンで歌うため、曲に一体感がある。静けさの中で不安や孤独を感じながらも、夢に向かう前向きな様子が感じられる。[A] [B]のユニゾンは音程やリズムを合わせて縦のラインを揃えることに加えて、短いフレーズになりやすいので、出だしや切り方を意識させ、大きなフレーズを作らせる必要がある。

[B] [A]と同じ和声進行で、IV→V→VIまたはIを多用し曲を安定させている。終止和音にDm(短三和音)とF(長三和音)を使い分けることにより、明と暗が揺れ動いている。mpからmfへと強弱を変化させ、歌詞の心情を支えている。ピアノ伴奏はritmicoの指示により左手の刻みを強調させ音楽を推進させる。暗く孤独な中にあっても、燃える情熱を頼りに未来を見つめる自分を語っている。

[C] 変ロ長調、へ長調、ニ短調で転調しているが[C]と[E]のみへ長調、ニ短調の構成音でない音が現れるため、楽曲に変化をもたらしている。Sop主旋律Alt伴奏Ten副旋律の三声部になる。Alt.の歌詞はリズムをずらして現れるためミステリアスな響きを創り出し、山場に向かう高揚感を演出していく。

[D] サビ部分。[A] [B] 同様、IV→V→VIのコード進行を繰り返す。ニ短調の自然短音階と解釈できる。Sop主旋律でAltとTen.の三声部で創り出すハーモニーが心を突き動かし、この曲の中で印象的なメロディの一つであるといえる。4小節という短い区分であるが、「ゆめをつかむものたちよ きみだけのほなをさかせよう」という歌詞はこの後も繰り返される。力強くもあり、気高さを感じさせる。言葉の明瞭さとフレーズの最後の響きが重要である。

[E] 間奏部分。歌詞が無く、三声のオブリガード。美しい響きを作っているコーラル部分である。ffという指示のため、静寂や祈りというより、豊かに響く声で音楽的な表現をするところである。

[F] 三声部によるコーラル風の「ア・カペラ」は、長野パラリンピックの合唱譜からの引用である。歌詞がなく[E]と類似しているが、3パートでハーモニーを作りながら進める。旋律をきれいに歌い、ハーモニーは旋律の背後から聴こえてくるような音響のイメージで一体感を奏でる。

[G] [F]の延長であるが、Ten.が主旋律となりSop.が副旋律でAlt.と共にハーモニーを歌う。へ長調の終止形は祈りとも解釈できるし、未来の輝きとも解釈できる。4声部の和声で終わる。[E][F][G]のvocaliseでは、声色を研究させてどのような響きを創り出すのかに迫らせる一方で、何を表現するのかを考えさせたい。「Ah」という言葉ではないvocaliseに込められた想いとは何かを一人一人が考えた上で、クラスの想いを一致させ表現に導きたい。

・歌詞解釈について

「旅立ち」と「夢を実現する強い気持ち」がテーマになっている。卒業を迎える生徒が自分の進むべき道を選択し歩んでいくその心情をこの曲に投影し、仲間との繋がりの中で自分の夢を果たそうとする気持ちと重ね合わせたい。一つ一つの言葉の意味を味わい、心を込めて表現させたい。

6. 指導について

合唱で「歌うこと」の土台は安心できる仲間関係である。自分の考えを持っているが発言することを躊躇う生徒は多い。歌となれば尚更である。歌声を周りに知られることは自分をさらけ出すことに等しい。しかし、一度その壁を破れたら、自己世界を広げると共に他者との共有体験ができる。学校行事である「附中のハーモニー」の取り組みに向けて、多くの時間数を投入する音楽科としては価値のあるものにしたい。舞台袖で出番を待つ間のドキドキ感、舞台上で震え上がるほどのヒリヒリするような緊張感と高揚感、体中のエネルギーを解き放って全力で歌う強い意志と解放感、仲間と一つの作品を創り出す一体感、仲間が一緒だからできる体験を中学校生活で味わって欲しいと考える。その高見を目指して、「練習」を繰り返し積み重ねる。非常に忍耐強さを必要とし、過程において満足感や楽しさを味わう日ばかりではない。しかし「正解がないゴール」に向かって、自分たちなりの解を見出す芸術活動が「意味のある経験」だったと最後に思えるよう生徒の成長を願い支える。また、音楽科では、「歌うこと」が持続可能であるために、ブレストレーニングやハミング、音階練習などで身体の使い方や喉を傷めないような正しい発声を身に付けることも重視している。本校で継続して取り組んでいる「YUBA メソッド」を YouTube に合わせて発声し、動作と発声が連動していることに留意しながら、おもて声とうら声をミックスさせる。2 オクターブ半の音域の中に順次進行・跳躍・換声点をなめらかに超えるなどのさまざまな技術が織り込まれていて、楽しみながら身体と発声が結びつくスキルを身に付けさせる。次に、各パート練習において、音程やリズム、強弱などを理解する読譜力を身に付けるための指導を行う。また、ハーモニーを聴き合う感覚も身に付けさせ、充実感を伴って楽しく学習させていきたい。自分たちの課題を認知し解決できるような機会を設定し、パートリーダーを中心にパート練習を行わせる。様子を見ながら教師の介入は的確に行いたい。授業の中で一連の過程を経験させ、自主的で協働的な力が求められる放課後練習に活かす土台作りを音楽科では行う。

第1時 基礎となる姿勢や発声を丁寧に行い、歌唱の構えを身に付ける。また、2 か月に及ぶ長い取り組みについて、ワークシートを使って見通しを持たせる。夏休みの課題である1 番を暗譜・録音提出へのフィードバックを行っており、合唱をクラスで初合わせ初録音をする。

第2時～第4時 教育実習生による授業をサポートする。練習番号 **A**～**E** の譜読みを丁寧に行う。音程やリズムなどの技能を正確に身に付けるためのパート練習を重点的に行う。また、合唱練習でお互いが他のパートに影響されないように、部分的に取り出し、拍を取りながら正しく合わせる。また、曲の山場いわゆるサビの **D** で、初めて f となるが、その前のクレッシェンドをどのように演奏すると効果的なのかを歌詞と照らし合わせて考えさせる。

第5時 全体像を掴ませる。どのような構成で曲が成り立っているのか、練習番号と歌詞を照らし合わせて考えさせる。**F** と **G** アカペラ部分は難易度が高く Ah と La の vocalise で構成されているため譜読みを丁寧に行う必要がある。ここでは階名唱でも練習し音と音の幅を理解させ、正確な音程を身に付けさせる。パート練習において、自分たちの課題を見つけながら進めさせる。お互いの声を聴きながら、自分のパートがつかれないように繰り返し合唱練習を行う。気づいたことや仲間からの助言を楽譜に記入し、学習の足跡を記録させる。

第6時 各パートのリーダーを中心に合唱隊形を決定する。指揮者と伴奏者、合唱者たちで初合わせし、指揮の仕方や合図の送り方を全員で確認しながら、暗譜で合唱する。自分や各パートの課題を共有し合い、練習ポイントを交流し合う。スマイルセッションに向けて、発表の質を高める。

第7時 強弱記号に着目させ、曲想や曲のまとまりと一致しているかを考えさせる。2パートで練習し、つられやすい箇所など聴き取りながら声部間バランスを整えることができるよう考えさせたい。

第8時 作曲された背景を知り、歌詞の意味をじっくり考える。歌詞に込められた想いを共有し表現に生かす。**E**がなぜffなのかを考えさせ、意味を理解した上で想いを込めて表現することができる。

第9時 **F**と**G**アカペラ部分を自信を持って歌えるように2パートずつ練習する。また、アカペラに込められた想いについて考え、アカペラ終止形表現について考え、工夫して表現する。

第10時 本番に向けた最後の調整を行う。クラスで表現したいことは何か、聴衆に伝えたいことは何かを交流し心を一つに表現することを楽しむことができる。

7. 指導と評価の計画（全10時間）

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につながる評価」

時間	□ねらい ■学習活動	評価の観点			評価方法	育成したい 資質・能力
		知	思	態		
第1時	□・姿勢を整え発声について共有する。 ・1番を全体合唱し自主練習の成果を披露し合う。 ■ファーストテイク！最初の合唱を行う。			●	●録音 ●ロイロノート ●行動観察	【協】
第2時	□・自主的なパート練習の方法を共有する。 ・譜読みを行い各パートの課題を共有する。 ■ A ～ D 各パートの譜読みを行う。 音程やリズムの不確かなところを練習する。	●		●	●ロイロノート ●行動観察	【発】 【解】 【協】
第3時	□ E Ahの歌い方について考える。 ■40～50小節を発声・音程に気をつけ練習し、全体でハーモニーを聴き合う。	●		●		
第4時	□曲のメッセージについて考え表現と結びつける。 ■ C → D の繋がりに注目し、楽譜の指示の意味を考え表現を導きだすことができる。		●	●	●ロイロノート ●発表	
第5時	□構成に注目させ、 F と G アカペラ部分の譜読みを行い、正確な音程を身に付ける。 ■階名練習で音程を正確に掴むことができる。 Ahの発声を工夫することができる。	●		●	●行動観察	【じ】 【伝】

第 6 時	☐ ・指揮者と伴奏者と合唱とを合わせる。 ・発表隊形を自分たちで決めることができる。 ・暗譜で合唱し、仲間による課題発見・伝え合い活動を入れて、練習のポイントをしぼる。 ☒ ・暗譜で不安になるところを見つける。 ・不安定になる箇所をしぼって練習する。 ・ピアノ伴奏とタイミングを合わせる。	●	●	●	●行動観察	【発】 【解】 【協】
第 7 時	☐ ・強弱記号に着目し、曲想・曲のまとまりが表現できているかを考える。 ・互いのパートの役割や繋がりを意識できる。 ☒ ・2パート別でつられやすい箇所や声部間バランスを聴きとることができる。 ・発声を生かし強弱表現を考え曲想について考える	●	●	●	●行動観察	【発】 【解】 【協】
第 8 時	☐ 歌詞と背景を考え、歌唱表現を創意工夫する。 ☒ 歌詞の意味を考え、ふさわしい表現を見つける。	○	○	○	○発表 ○ロイロ ノート	
第 9 (本時)	☐ F アカペラに込められた想いを表現する。 ☒ ・アカペラ終止形表現について考える。 ・アカペラ込められた想いを工夫して表現する。	●	●	●	●発表 ●ロイロ ノート	
第 10 時	☐ 発表に向け最終チェックし完成度を高める。 ☒ 「聴衆に伝わる」とは何かを確認し、本番をイメージすることができる。	○	○	○	○発表 ○ロイロ ノート	

表内の **A**～**F** は練習番号を指す。

※育成したい資質・能力の表記は省略した名称で記述している。

根拠 ⇒ **【根】**，じっくり・いろいろ ⇒ **【じ】**， アイディア ⇒ **【ア】**

問題発見 ⇒ **【発】**， 問題解決 ⇒ **【解】**， 振り返り ⇒ **【振】**

協働 ⇒ **【協】**， 伝達・発信 ⇒ **【伝】**

8. 本時の指導 (9/10)

(1) 目標

- ① **F**や**G**の音程やリズム，表現を確認し，主旋律と伴奏の関係部分とユニゾンで三声が重なる箇所を取り出して，ハーモニーを味わうことができる。 [思考力，判断力，表現力等]

- ② 仲間の声と自分の声を聴き合い、課題箇所を各パートや全体で共有し解決することができる。
 [学びに向かう力, 人間性等]

(2) 指導計画 (50 分) (第 9/10 時)

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価	育成したい 資質・能力
1. 発声練習を行う。 A ブレス B 「ieaouuu」 C YUBA メソッド	A.ブレス練習(ショート+ロングブレス) 身体のどこを支えにしているかを確認させる。 B. 「ieaouuu」 (ソソソソソミド) ソプラノ：一点ハ～二点ヘ アルト：一点ハ～二点ニ テノール：ハ～一点ニ C 手の動きと声の連動を確認させる。 A～C より選択し、発声のポイントを示しながら心と身体のウォーミングアップを行う。	【協】
2. 課題を決める。 予想される生徒の反応 ・発声の苦しいところがある。 ・D2からFの繋がりが掴めていない。 ・他パートが入るとつられる。 ・F Gのア・カペラが不安 ・三声のハーモニーOK！or？ ア・カペラに込められた想いを表現しよう。	一度通す。本時の課題を決める。 ・F 音程も自信持てるまでなってきた、ハーモニーもできてきた。 ・「Ah」や「La」にはどんな感情・想いが込められているのだろう。」と問いかける。 「無伴奏にしたのには、理由があるのだろうか？」	
3. パート練習を行う。 予想されるパート練習の様子 ・高音で引きつってしまう ・声量を上げると喉声になる →呼吸量を上げる 声を前に響かせるイメージ →男声の低音で喉を少し緩めて おもて声傾向にすると充実したハーモニーがつかれる。	51 小節から、アカペラ部分を抜粋して行わせる。 ・各パートで協力し、課題が出し合っているか解決に向けた練習に取り組んでいるかを見守る。 ・必要に応じて、アドバイスをする。 ・正しい音程やリズム・言葉・発声・強弱記号・フレーズなど、課題に対しての手立てを行う。 →の部分が生徒自身で出来ていない場合は、教師がアドバイスする。	【協】 【伝】 【発】 【解】

・リズムが乱れて、速くなる →カウントを取りながら歌う ・休符後や G に入るタイミングが分からない。 →拍子読みで入る拍を確認する ブレスの位置を揃える ・言葉が不明瞭 →フレーズや語頭語尾の扱い ・強弱に変化がない →強弱記号を考える。	・近くの人同士でアドバイスを送らせる。 ・パート内の声色が揃っているかに着目させる。 ◆パートの中で、課題に対する解決策を考え、仲間に伝えようとしているか。(思)	
4. 全体練習を行う。 ・通した後、意見を交流する。 ・解決に向けた練習を行う。	51 小節から指揮者・伴奏者が入って合わせさせる。 ・パート内で交流させる。 ・指揮者から感想を伝えさせる。 ・生徒から出された課題について、生徒にやってみたいところを聞く。 ・全体練習は、教師が行う部分がある。	
5. 最後に通す。	◆音楽の構成やパートの役割を理解して実践し、技能を高めることができている。(技) ◆課題解決に向けて、仲間に助言をしたり、教え合おうとしたりしている。(態)	【解】 【協】 【伝】
6. 本時の振り返りを行う。	・歌い終えて、感じたことを伝え合わせる。 ◆ロイロノートに活動を通して得た学びを書いている。(思)	

<参考文献>

- M0 文部科学省 (2020) :『国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 音楽』東洋館出版社.
- M0 文部科学省 (2017) :『中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 音楽科編』教育芸術社.
- HI 広瀬肇・弓場徹 (2020) :『誤嚥防止のための発声指導 基礎と YUBA メソッドの実践』インテルナ出版.
- YI 弓場徹 (2015) :『ミックスボイストレーニングで必ず歌が上手くなる本』主婦の友インフォス情報社.